

《インドネシア》大統領選に挑む3組の正副大統領候補 直近世論調査ではプラボウォーギブラン・ペアがリード

世界4位(約2億7千万人)の人口を有するインドネシアで、「世界最大の直接選挙」とも言われる大統領選が2月14日に実施される。東南アジア諸国連合(ASEAN)はもとより今や「グローバルサウス」の牽引役ともされる同国のリーダーが10年ぶりに交代する。大統領選は正副大統領のペアを選出するが、進行中の選挙戦で凌ぎを削っているのは、プラボウォ(国防相)ーギブラン(スラカルタ市長)、アニス(前ジャカルタ知事)ームハイミン(国会副議長)、ガンジャル(前中ジャワ州知事)ーマフッドMD(調整相)の3つのペアだ。

〔プラボウォーギブラン・ペア〕

インドネシアの有力日刊紙「コンパス(KOMPAS)」が昨年12月中旬に発表した世論調査では、同(プラボウォーギブラン)ペアは、他の2つのペアを上回る支持率39.3%でトップに立っている。

同ペアを擁立する政党の連合体「インドネシア前進連合(KIM)」は、国会(DPR)で85議席を持つゴルカル党、グリンドラ党(78議席)、民主党(54議席)、国民信託党(44議席)と小政党・新党5党(議席なし)で構成される。

〔大統領候補〕

■プラボウォー・スピアント(退役陸軍中將) Lt. Gen.(Ret.)Prabowo Subianto
【公職】国防相 Minister of Defense



第26代国防相。ジョコ・ウィドド(通称ジョコウィ)現政権の与党第3党「グリンドラ党(Gerindra)」の総裁。元陸軍戦略予備軍(Kostrad)司令官。2023年10月25日にギブラン副大統領候補とペアでの大統領選への立候補を届け出た。基本的にジョコウィ政権の政策を踏襲し、「開発を継続するためのプログラムやビジョンを持って前進する」と表明している。

*2014年7月の大統領選でジョコウィ候補(現大統領)に敗れており、19年4月の大統領選でも現職のジョコウィ候補との一騎打ちで惜敗した。19年10月に成立した現・第2期ジョコウィ政権では大統領の求めに応じて現職(国防相)で入閣した(最大の「サプライズ人事」)。来る2月の大統領選は「ジョコウィ・ファミリー」の支援を受け、「3度目の正直」をかけての立候補となった。

*独立前の東ティモール(州)での市民殺害に関与したとして、欧米諸国など国際社会では、現在でも人権問題での批判が付き回るといった弱点がある。一方で、そうした強権的な過去を知らない青壮年層には「親しみ易く、力強い」リーダーだとして圧倒的な支持を受けている。

*故スハルト元大統領の次女シティ・ヘディアティ・ハリヤディ(Siti Hediati Hariyadi)、愛称ティティック(Titik Suharto)氏と1983年に結婚したが、98年に離婚(2人の間には1男)。

*スカルノ政権時代に財務相を努めた著名な経済学者、スミトロ・ジョヨハディクスモ博士(Dr. Soemitro Djohadikusumo)の3男。父が反スカルノ亡命政府に参画していた関係で、幼少期から海外生活が長く仏語、独語、英語、オランダ語を流暢に話す。

▼データ：【年齢】72歳(1951年10月17日生まれ)【生地】ジャカルタ【政党】グリンドラ党(Gerindra)：総裁【人種】ジャワ人【学歴】(英)アメリカンスクール卒、1974年インドネシア国軍士官学校(Akabri)卒(総代)【経歴】陸軍将校：1983年陸軍特殊部隊(Kopassus)東ティモール派遣部隊長(一88年)。94年Kopassus副司令官、95年同司令官。98年3月陸軍戦略予備軍(Kostrad)司令官、同5月国軍参謀学校長。同8月「反政府活動家の殺害などを指揮した」罪に問われ、軍事法廷で軍籍剥奪(のちに回復)。その後、ヨルダン、ドイツ、タイ(バンコク)で「亡命」生活を送る。2000年5月帰国し、02年ヌサンタラ・エネルギー(Nusantara Energy)グループ創設。08年7月(ゴルカル党から正式離脱し)Gerindraを創設、諮問会議議長に就任。09年7月大統領選に(メガワティ候補とペアの)副大統領候補と

して立候補するが落選。14年7月大統領選に立候補するがジョコウィ候補に敗北。同9月Grendra総裁(一現職)。19年4月大統領選挙で現職のジョコウィ候補に惜敗。同10月23日(第2期ジョコウィ政権)国防相(一現職)。

〔副大統領候補〕

□ギブラン・ラカブミン・ラカ Gibran Rakabuming Raka
【公職】スラカルタ(ソロ)市長 Mayor of Surakarta(Solo)



2023年10月25日にプラボウォ大統領候補(国防相)とペアの副大統領候補として立候補届け出を行った。現中ジャワ州スラカルタ市長(20年12月の統一地方選挙で87%という圧倒的な得票率で当選)。ジョコウィ現大統領の長男。

*最低年齢40歳とされている正副大統領の資格要件があるにもかかわらず、36歳の同(ギブラン)氏が副大統領候補としての出馬が可能になったのは、憲法裁判所が昨年10月16日、「地方自治体首長の経験があれば立候補は可能(年齢制限の例外とする)」との裁定を行ったからだ(この裁定については、憲法裁判所のアンワル長官〔当時：11月に解任〕がジョコウィ大統領の義弟だったことから縁故主義だとの批判が出ている)。

*副大統領に当選すれば、「デジタル・スタートアップ企業への融資を行い、鉱物加工産業とグリーン経済の開発を継続する」と表明。アニメのファンで一推しは「鬼滅の刃」。

▼データ：【年齢】36歳(1987年10月1日生まれ)【生地】中ジャワ州スラカルタ【政党】無所属【学歴】2007年シンガポール経営開発院(MDIS)大学卒、10年(豪)シドニー大学卒【経歴】実業家・政治家：2014年に帰国後、Chilli Pari(ケータリング)、Markobar(F&Bチェーン)、Pasta Buntel(パスタ)、CS Coffee Shop、Goolaなどの飲食関連の他、求職アプリKerjajolicなど数社を創業し実業家として確立。2020年9月闘争民主党(PDI-P)入党(一23年10月離脱)。21年2月26日スラカルタ市長に就任(一現職)【家族】セルフフィ(Selvi Ananda)夫人との間に1男1女。

〔アニスームハイミン・ペア〕

上述した「コンパス(KOMPAS)」の世論調査では、支持率16.7%で、プラボウォーギブラン・ペアに次いで(3ペア中の)2位に就けている。

同ペアを擁立する「変化連合(KPP)」は、DPRで59議席を占めるナスデム党、民族覚醒党(58議席)、福祉正義党(50議席)で構成される。

■アニス・バスウェダン(博士) Dr Anies Rasyid Baswedan

【公職】前ジャカルタ首都特別州知事

Former Governor of the Special Capital Region of Jakarta



前ジャカルタ首都特別州知事。2023年10月19日に(後述する)ムハイミン副大統領候補とペアでの大統領選への立候補を届け出た。大統領が進める「新首都(IKN：ヌサンタラ)建設には「国家の緊急課題ではなく、大規模な予算支出は疑問」として見直しを主張している。

*米ノーザンイリノイ大学で政治学博士号を取得した「知米派」の学者であるとともに、自称「穏健イスラム教」の理念を掲げる社会活動家・

政治家。2007年には38歳の若さで(ジャカルタ)パラマディナ大学(UPM)の学長に就任し、インドネシア最年少の学長として話題となった。

*2014年10月に発足した第1期ジョコウィ政権で初中等教育・文化相に就任したが、大統領との政策上の違いから16年7月の内閣改造の際に解任された。

*2017年4月に実施されたジャカルタ首都特別州知事選の決戦投票で、ジョコウィ大統領の「盟友」で中国系(華人)キリスト教徒の現職バスキ・チャハヤ・プルナマ(通称アホック)候補を破り当選。

*同年5月には、アホック前知事がイスラム教の聖典「コーラン」を侮辱したとして宗教冒瀆罪で禁錮2年の実刑判決を受けたが、そこに至る過程でイスラム保守・急進派勢力と連携して(国際人権諸団体が厳しく批判する)「アホック迫害」に協力したことで同(アニス)氏のイスラム至上主義的な思想傾向が露呈した。

*日本との関係では、上智大学のアジア学夏期講座に参加。また、2010年には中曽根康弘賞を受賞している。

▼データ：【年齢】54歳(1969年5月7日生まれ)【生地】西ジャワ州クニンガン【政党】無所属【人種】ジャワ人(アラブ人【ハドラミー】の血筋も混じる)【学歴】1995年(ジョクジャカルタ)ガジャマダ大学(UGM)卒(経営学)。98年(米)メリーランド大学(UMD)公共政策修士(MPP)、2005年(米)ノーザンイリノイ大学(NIU)政治学博士【経歴】学者・政治家：地方分権・自治改革アドバイザーなどを経て、2007年パラマディナ大学学長(15年)。14年8月(ジョコウィ)「政権移行チーム」メンバー、同10月(第1期ジョコウィ政権)教育・文化相(16年7月)。17年4月19日ジャカルタ首都特別州知事選の決戦投票で当選、同10月同知事に就任。22年10月16日任期満了で同知事退任。【家族】フェリー(Fery Farhati Ganis)夫人との間に3男1女。

□ムハイミン・イスカンダル Muhaimin Iskandar

【公職】国会副議長 Deputy Speaker of the House of Representatives

アニス大統領候補とベアの副大統領候補。現国会(DPR)副議長で、DPR議員は5期目(東ジャワ州8区)。インドネシア最大のイスラム信徒団体「ナフダトゥル・ウラマー(NU)」を支持基盤とする穏健イスラム政党「民族覚醒党(PKB)」の総裁(党首)を過去18年間務めている。第2次ユドヨノ政権で労働・移住相を務めた。

*NUの長老一族出身で、ワヒド元大統領(元NU総裁・元PKB総裁)の甥。NU系「インドネシア・イスラム学生運動(PMII)」の会長を経て、1999年6月総選挙で国会議員(DPR)に初当選し国政入り。同10月にDPR副議長に選任された時は(正副議長として史上最年少の)33歳だった。

▼データ：【年齢】57歳(1966年9月24日生まれ)【生地】東ジャワ州ジョンバン【政党】民族覚醒党(PKB)：総裁【人種】ジャワ人【学歴】1992年ガジャマダ大学社会学・政治学部卒、98年インドネシア大学(UI)修士(コミュニケーション学)【経歴】活動家・政治家：「イスラム・社会研究所(LKIS)」研究員、「世論研究所(LPU)」研究部長などを経て、1994年PMII会長。1999年6月総選挙で国会(DPR)議員に初当選、同10月国会(DPR)副議長。2004年4月総選挙でDPR議員に再選後、DPR副議長(再選出：09年10月)。09年10月(第2次ユドヨノ政権)労働・移住相(14年10月)。18年3月国民評議会(MPR)副議長(19年10月)。19年4月17日総選挙でDPR議員に5選、同10月1日DPR副議長(一現職)【党職】1998年7月PKBの創設に参画し幹事長に就任。2005年4月PKB総裁(一現職)【家族】ルスティニ(Rustini Murtadho)夫人との間に3子。

【ガンジャル・マフッド・ベア】

上述した「コンパス(KOMPAS)」の世論調査では、支持率15.3%で、正副大統領候補3ペア中の3位(最下位)に甘んじている。

同ペアを擁立する政党は国会(DPR)で128議席を持つ、ジョコウィ現政権の最大与党「闘争民主党(PDI-P)」、開発連合党(19議席)と小政党2党(議席なし)。

【大統領候補】

■ガンジャル・プラノウォ Ganjar Pranowo

【公職】前中ジャワ州知事 Former Governor of Central Java



2013年から2期務めた中ジャワ州知事を23年9月に任期満了で退任。それに先立つ4月には、闘争民主党(PDI-P)から同党の次期大統領候補に正式に指名されており、10月19日にマフッドMD副大統領候補とベアでの大統領選への立候補を届け出た。

*中ジャワ州知事を10年間勤め、その間にインフラ修復、地域開発事業の推進、無料教育の提供などに成果を挙げ、全国的にもその行政能力が評価された。また、ソーシャルメディア(特にツイッター〔現X〕)を駆使して、州政府の政策や業務に対する要求・苦情に果敢に対応するという行政スタイルが州民から人気を博した。

*スカルノ初代大統領の熱烈な信奉者。名門ガジャマダ大学の学生時代は「インドネシア国民学生運動(GMNI)」に参加して、スハルト政権(当時)の独裁体質を批判する活動を行った。それもあって、現在まで反体制的な「ポピュリスト」で「左翼指向」とのイメージがある。

*1996年に旧「インドネシア民主党(PDI)」がスハルト政権の画策で分裂した際には、メガワティ氏(初代大統領の長女：のちに大統領・PDI-P現総裁)のグループを支持して、(スハルト政権崩壊後の)99年の新党PDI-Pの結党に参画した。

▼データ：【年齢】55歳(1968年10月28日生まれ)【生地】中ジャワ州カラニヤル【政党】闘争民主党(PDI-P)【学歴】1994年(ジョクジャカルタ)ガジャマダ大学法学部卒、2013年インドネシア大学(UI)政治学修士【経歴】大学卒業後、ジャカルタに移住し、「プラカルサ・プラマンディタ」社(PT Prakarsa Pramandita)など石油・ガス業界の人的資源開発担当者として勤務。2004年国会(DPR)議員(PDI-P会派)。09年DPR議員(2期目)。13年8月中ジャワ州知事に初当選。18年9月5日中ジャワ州知事に再選。23年9月5日任期満了で同知事退任。【家族】シティ・アティコ(Siti Atikoh Suryani)夫人との間に1男。

□モハンマド・マフッドMD(教授・博士)

Prof. Dr. Mohammad Mahfud Mahmodin

【公職】調整相(政治・法務・治安)

Coordinating Minister for Political, Legal and Security Affairs



ガンジャル大統領候補とのペアの副大統領候補。2019年10月に発足した現第2次ジョコウィ政権でシビリアンとしては同国政治上初の政治・法務・治安担当調整相(諸外国の副首相級)に就任。それ以前には、ワヒド政権で国防相を務めたこともある。

*イスラム大学の副学長、学長を歴任後に政界入りし、国会議員、閣僚(国防相、調整相)、憲法裁判所長官と立法・行政・司法3機関の要職を務めた実力者。政治の理論と実践の「架け橋」的存在とみなされ、汚職の噂がないクリーンなイメージでも知られる。

▼データ：【年齢】66歳(1957年5月13日生まれ)【生地】東ジャワ州(マドゥラ島)サンパン【政党】無所属【人種】マドゥラ族【学歴】1983年インドネシア・イスラム大学(UII)卒(法学士)、89年ガジャマダ大学(UGM)法学修士、93年同大学法学博士【経歴】UII教授(憲法学)(一現在、同大学副学長を経て、(東ジャワ州クディリ)カディリ・イスラム大学学長。2000年8月(ワヒド政権)国防相。2001年7月法務・人権相(3日間のみ)。04年国会(DPR)議員(PKB)。08年8月憲法裁判所判事を経て同裁判所第2代長官(13年4月)。19年10月23日(第2次ジョコウィ政権)調整相(政治・法務・治安)(一現職)【家族】ザイザトウン(Zaizatun Nihayateli)夫人(弁護士・教師)との間に2男1女。

(アジア・リンケージ 勝田 悟)